

## 教員情報

牧原 勝志 (MAKIHARA Katsushi)	
所属	看護栄養学部 健康栄養学科
職名	教授 / 教員養成センター所長

## 【学位・業績等】

有する学位	教育学士
学位取得大学	鹿児島大学
主な担当科目	教職論、教育制度論
専門分野	教職研究、教員研修研究、小学校英語教育
主な研究テーマ	教員養成と研修の高度化 主体的・対話的で深い学びを育む小学校外国語科の学習指導
学会・社会活動	九州教育学会、日置市教育委員会外部評価委員、鹿児島県小学校外国語活動・外国語科研究会顧問
主な業績 (教育・研究等)	<p>鹿児島県公立小学校教員・教頭・校長、県小学校外国語活動・外国語科研究会長、鹿児島大学教育学部附属教育総合実践総合センター教授、県総合教育センター企画課長、日置市立中央図書館長を経て現在</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校外国語活動の現状と展望～課題解決的な学習活動の展開～」2011年 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要第20巻</li> <li>・「総合講義『教職応用研究』の実践」(共著)2011年 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要第21巻</li> <li>・「コミュニケーションへの積極的な態度を育てる小学校外国語活動」2011年 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要第21巻</li> <li>・「総合講義『教職実践研究Ⅱ』の実践」(共著)2011年 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要第21巻</li> <li>・「コミュニケーションへの積極的な態度を育てる小学校外国語活動～子どもの『気付き』を生かす指導を通して」(共著)2012年 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要第22巻</li> <li>・「学級経営の実践的指導力の育成を図る『教職実践研究Ⅱ』の取組～実地観察をもとにした学級経営案の作成を通して～」(共著)2012年 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要第22巻</li> <li>・「教員としての職能形成に資する教育システムの構築と運用～新任から10年目教員へいたる卒業後支援体制の構築」(共著)2012・13年 文部科学省特別教育研究経費事業報告書(鹿児島大学教育学部)</li> <li>・「小学校英語ハンドブックー小学校英語の教科化」(共著)2017年 啓林館</li> <li>・「小学校外国語科教科書『Blue Sky elementary(5・6年)』」編集協力 2016・17年 啓林館</li> <li>・「小学校英語で取り扱う語彙の音声的特徴～二重母音、音節数、子音連鎖に注目して～」(共著)2020年 VERBA 鹿児島大学言語文化論集</li> </ul>

## 教員情報

遠藤 武夫 ( ENDO Takeo )	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 初等・中等(英語)教育専攻 児童生徒教育コース
職名	教授

## 【学位・業績等】

有する学位	教育学修士
学位取得大学	兵庫教育大学大学院
主な担当科目	音楽科教育法 音楽概論 音楽Ⅰ～Ⅳ 保育実技特講Ⅰ
専門分野	音楽科教育
主な研究テーマ	伝統音楽の教材化 歌唱指導 リコーダー指導 吹奏楽指導
学会・社会活動	日本教科教育学会
主な業績 (教育・研究等)	<p>&lt;教育&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鹿児島県公立小学校・中学校・高等学校(教諭)</li> <li>・ 鹿児島県教育庁学校教育課指導主事</li> <li>・ 鹿児島県公立高等学校(教頭、校長)</li> <li>・ 第10回及び第11回全日本小学校バンドフェスティバル出場 (鹿児島大学教育学部附属小学校吹奏楽部)</li> <li>・ 第63回九州合唱コンクール 金賞 (鹿児島県立鶴丸高等学校音楽部)</li> <li>・ 第1回及び第3回声楽アンサンブルコンテスト全国大会 銅賞 (鹿児島県立鶴丸高等学校音楽部)</li> </ul> <p>&lt;研究&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「日本音楽と音楽科教育 ～小・中学校における学習内容の体系化～」 1990年 兵庫教育大学教科領域教育専攻芸術系コース修士論文</li> <li>・ 「日本音楽と音楽科教育」 1990年 音楽之友社 季刊音楽教育研究 秋65</li> <li>・ 「音楽をつくって表現する学習の展開 ～おもいを重視して～」 1991年 広島大学附属小学校学校教育研究会 学校教育9 NO.890</li> <li>・ 「伝統音楽の教材化の可能性」(共著) 1999年 兵庫教育大学研究集録第18巻 第2分冊</li> <li>・ 「学校音楽におけるポピュラー音楽の有用性について」 2000年 兵庫教育大学芸術教育研究誌 教育と芸術</li> <li>・ 「日本の感性を育む系統的な伝統音楽の学習」 2004年 CD-ROM版 音楽科教育実践講座(山本文茂監修)</li> <li>・ 「純正な和音の響きを作る能力を育成するリコーダー学習 ～小学校音楽における指導内容・方法」 2019年 日本教科教育学会誌 第42巻 第3号</li> <li>・ 校歌考「消える校歌 生まれる校歌」(共著) 2020年 南方新社 新薩摩学14 古閑章・栗原真孝編 P82～P108</li> </ul>

## 教員情報

川上 典子 (KAWAKAMI Noriko)	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 初等・中等(英語)教育専攻 児童生徒教育コース
職名	教授

## 【学位・業績等】

有する学位	MA
学位取得大学	Reading University
主な担当科目	英語科教育法、児童英語、児童英語演習、異文化コミュニケーション論
専門分野	英語教育、応用言語学
主な研究テーマ	小学校英語活動、英語教育における小中連携、教員研修
学会・社会活動	大学英語教育学会 (JACET) 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 小学校英語教育学会 (JES) 全国英語教育学会
主な業績 (教育・研究等)	[著書] 共著「中学校英語の運用力をつける授業づくり&指導のツボ」2012, 明治図書 共著「21世紀の英語科教育」2007, 開隆堂  [論文] 単著「中学校英語教科書に見る小中連携」 鹿児島純心女子大学紀要第28号, 2022 単著「英語教育のコア・カリキュラム(試案)の汎用性の検証へ向けて」 鹿児島純心女子大学紀要第23号, 2017 単著「小学校英語の教科化に向けて: 研究開発校の指導体制の再考」 鹿児島純心女子大学紀要第21号, 2015 単著「英語教育における小中連携: 文字指導のあり方」 鹿児島純心女子大学紀要第20号, 2014

教員情報

釘田 雅司 (KUGITA Masashi)	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 初等・中等(英語)教育専攻 児童生徒教育コース
職名	教授 / 児童生徒教育コース長

【学位・業績等】

有する学位	教育学修士
学位取得大学	上越教育大学大学院学校教育研究科
主な担当科目	特別支援教育概論 重複障害・LD等教育 特別支援教育課程論
専門分野	特別支援教育
主な研究テーマ	知的障害教育 特別支援学校教育課程 発達障害児への指導・支援
学会・社会活動	日本特殊教育学会 日本発達障害学会 薩摩川内市教育支援委員会会長 鹿児島県社会福祉協議会評議員
主な業績 (教育・研究等)	鹿児島県立特別支援学校教員・校長, 鹿児島県教育庁特別支援教育室長等を経て現職 ・ダウン症児の視覚-運動能力における形態の認知機能と構成機能 1991年 日本発達障害学会 発達障害学研究第13巻 ・特別支援教育推進のための鹿児島県総合教育センターの取組 2004年 上越教育大学障害児教育実践センター紀要第10号 ・知的障害のある子どもの視知覚-運動機能の協調性を育てる支援 2018年 鹿児島純心女子大学 こども学研究 こども発達臨床センター紀要第10号 ・自閉児の行動特性を活用し行動変容を図った指導事例 1994年 クロアール精神薄弱教育実践講座第2巻 ・障害児発達支援基礎用語事典 特別なニーズ教育に応えるためのキーワード110(共著) 2002年 川島書店

## 教員情報

広瀬 健一郎 (HIROSE Ken' ichiro)	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 初等・中等(英語)教育専攻 こども発達コース
職名	教授

## 【学位・業績等】

有する学位	修士(教育学)
学位取得大学	北海道大学大学院教育学研究科博士課程
主な担当科目	子育ての原理、保育内容総論、教育実習(幼稚園)
専門分野	教育学(教育史・比較教育・教育実践論)
主な研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代カナダ先住民族教育史</li> <li>・保育者養成実践研究</li> <li>・授業における「対話」に関する研究</li> </ul>
学会・社会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カナダ教育学会理事</li> <li>・日本カナダ学会理事</li> <li>・日本教育学会会員</li> <li>・日本保育学会会員</li> </ul>
主な業績 (教育・研究等)	<p>(共著)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先住民教育の現在—教育の自治を求めて」、飯野正子・竹中豊監修、日本カナダ学会編『現代カナダを知るための60章』、明石書店、2021年。</li> <li>・「学力保障と伝統文化の継承は両立できるか—奄美群島の挑戦」、古閑章編『新薩摩学15 学問のエッジを極める』、南方新社、2020年。</li> <li>・「先住民の自治—「主権」の喪失と回復追求の近現代史」、細川道久編『カナダの歴史を知る50章』、明石書店、2017年。</li> <li>・「先住民族研究から見える奄美研究の可能性—「新薩摩学」と「奄美学」の知的融合に向けて—」、仙波玲子・古閑章編『新薩摩学10 もっと知りたい鹿児島』、南方新社、2014年。</li> <li>・「カナダにおける先住民族教育システム構築のための論理と戦略—日本への示唆を求めて」、日本社会教育学会編『アイヌ民族・先住民族教育の現在』、東洋館出版社、2014年。</li> <li>・「戦後カナダの先住民族に対する経済開発政策と教育—1946-1969」、岸上伸啓編『北アメリカ先住民の社会経済開発』、明石書店、2008年。</li> <li>・『東京イチャルパへの道—明治初期のアイヌ教育をめぐる』(長谷川修、狩野雄一との共著)、現代企画、2008年。</li> <li>・岡本拓子編『つくってさわって感じて楽しい 実習に役立つ表現遊び②』、北大路書房、2007年。</li> <li>・関口礼子・浪田克之介編『多様社会カナダの「国語」教育』、東信堂、2006年。</li> <li>・小林順子ほか編『21世紀にはばたくカナダの教育』、東信堂、2003年。</li> </ul>

## 教員情報

幸 聖二郎 (MIYUKI Seijiro)	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 初等・中等(英語)教育専攻 児童生徒教育コース
職名	教授

## 【学位・業績等】

有する学位	教育学修士
学位取得大学	兵庫教育大学大学院
主な担当科目	国語科教育法 こども文学 日本文学
専門分野	国語科教育学
主な研究テーマ	小学校国語科における音声言語の指導に関する研究
学会・社会活動	全国大学国語教育学会 日本国語教育学会 日本カトリック教育学会
主な業績 (教育・研究等)	<p>「総合的な学習の時間」と「国語科」との両輪でことばの力をつける (第114回全国大学国語教育学会茨城大会・2008年6月1日)</p> <p>「声を届ける」活動から「討論する」活動へ ～入門期の「話すこと指導」の試み～ (日本国語教育学会主催第72回国語教育全国大会・2009年8月4日)</p> <p>「宗教の授業」と「道徳の授業」の積極的な交流を (カトリック教育研究第26号・2009年8月31日)</p> <p>子どもが本好きになる読書単元の指導 ～1年「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の実践を通して～ (月刊国語教育研究第469号・2011年5月10日)</p> <p>「人格教育」に向けての提言～カトリック系小学校の現場から～ (カトリック教育研究第32号・2015年8月31日)</p> <p>積極的な生徒指導を進めるための特別活動の在り方 ～学級活動にソーシャルキルトレーニングを取り入れることの意義～ (北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要第8号・2016年3月4日)</p> <p>小・中学校における特別活動の意義と内容及び展開の仕方 (北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程研究第2号・2016年8月31日)</p> <p>小・中学校における特別活動の意義と内容及び展開の仕方Ⅱ ～本学における「特別活動の研究」での取組を通して～ (北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程研究第3号・2017年2月25日)</p> <p>金子みすゞの詩にみる宗教性～みすゞを育てたふるさと「仙崎」～ (北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程研究第4号・2017年9月30日)</p> <p>日本の児童文学に影響を与えたあまんきみこの作品分析 ～小学校教材「ちいちゃんのかげおくり」に着目して～ (北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程研究第7号・2020年3月5日)</p> <p>あまんきみこにとっての「満州」とその作品に関する一考察 ～「雲」の作品分析を中心に～ (北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程研究第8号・2021年3月1日)</p>

## 教員情報

柳園 順子 (YANAGIZONO Yoriko)	
所属	看護栄養学部 看護学科
職名	准教授

## 【学位・業績等】

有する学位	修士（教育学）
学位取得大学	九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻
主な担当科目	学校保健、養護実習Ⅰ・Ⅱ、健康相談活動の理論及び方法、教育原理
専門分野	学校保健、健康相談、教育学
主な研究テーマ	ジェンダー・セクシュアリティと教育に関する史的研究 学校保健・養護教諭制度の成立と発展過程に関する研究
学会・社会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本教育学会、日本家族社会学会、日本学校保健学会、日本養護教諭教育学会、九州教育学会、関西家族社会学研究会（KAFS）</li> <li>・日本養護教諭養成大学協議会評議員</li> </ul>
主な業績 (教育・研究等)	<p><b>【著書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柳園順子編『よくわかる！教職エクササイズ⑧学校保健』ミネルヴァ書房. 2019年（編著）</li> <li>・香川七海他編『七猫教育テキスト3 教育原理』七猫社. 2019年（共著）</li> <li>・柳園順子『学校保健』姫路大学教育学部通信教育課程. 2019年（単著）</li> <li>・柳園順子『養護実習事前・事後指導』姫路大学教育学部通信教育課程. 2019年（単著）</li> <li>・柳園順子『健康相談活動』姫路大学教育学部通信教育課程. 2020年（単著）</li> </ul> <p><b>【論文】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「養護教諭制度の成立と普及について－職制20（1961）年までの議論を素材に－」姫路大学教育学部紀要第13号. 15－25. 2020年</li> <li>・「性教育の歴史社会学的研究②学校文化における生徒指導・道徳教育・月経指導の諸相」姫路大学教育学部紀要第12号. 41－47. 2019年</li> <li>・「戦後改革期の矯風会による純潔運動と母役割の強調－杉並事件をめぐる対応を中心に－」九州教育学会研究紀要第42巻. 37－44. 2014年、他多数</li> </ul> <p><b>【学会発表等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1970年代初頭における「セクシュアリティ概念」受容の諸相－LAカーケンダールの新しい性教育を焦点に」日本家族社会学会第30回大会. 2020年</li> <li>・「1950年前後の学校における健康教育－1949年中等学校保健計画実施要項（試案）「成熟期への到達」を焦点に－」日本教育学会第70回大会. 2020年、他多数</li> </ul> <p><b>【競争的資金】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費助成事業 基盤(C)「戦後日本における性教育構築プロセスに関する歴史社会学的研究」令和元年度～令和3年度</li> </ul> <p>※詳細は researchmap 参照  <a href="https://researchmap.jp/yngznyrk">https://researchmap.jp/yngznyrk</a></p>

## 教員情報

今村 佳代子 (IMAMURA Kayoko)	
所属	看護栄養学部 健康栄養学科
職名	准教授

## 【学位・業績等】

有する学位	家政学修士
学位取得大学	日本女子大学大学院家政学研究科食物・栄養学専攻
主な担当科目	栄養教育論、栄養カウンセリング論、応用栄養学
専門分野	栄養教育、スポーツ栄養（公認スポーツ栄養士）
主な研究テーマ	スポーツをする高校生・大学生への栄養教育 高齢者のフレイル予防のための食教育
学会・社会活動	日本栄養士会、鹿児島県栄養士会（理事）、 日本栄養士会研究教育事業部推進委員、 日本栄養改善学会（評議員）、日本スポーツ栄養学会（評議員）、 日本動脈硬化学会、日本糖尿病学会、日本病態栄養学会、日本臨床栄養学会
主な業績 (教育・研究等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常朝食型高脂肪負荷食 Kisei-meal による食後高脂血症の評価と食後 TG-rich リポ蛋白代謝に及ぼす影響. 動脈硬化, 28 : 205-213, 2001 : <u>今村佳代子</u>, 丸山千寿子, 都島基夫, 京谷晋吾, 中野里美, 仲森隆子, 丸山太郎</li> <li>2. Effects of tomato juice consumption on plasma and lipoprotein carotenoid concentrations and the susceptibility of low density lipoprotein to oxidative modification. Journal of Nutritional Science and Vitaminology, 47 : 213-221, 2001 : C Maruyama, <u>K Imamura</u>, S Oshima, M Suzukawa, S Egami, M Tonomoto, N Baba, M Harada, M Ayaori, T Inakuma, T Ishikawa</li> <li>3. Assessment of LDL particle size by Triglyceride / HDL-Cholesterol ratio in non-diabetic, healthy subjects without prominent hyperlipidemia. J Atheroscler Thromb, 10 : 186-191, 2003 : C Maruyama, <u>K Imamura</u>, T Teramoto</li> <li>4. 鹿児島県内小学校における食育の現状. 鹿児島純心女子大看護栄養学部紀要, 13 : 43-51, 2009 : <u>今村佳代子</u>, 原口美穂, 迫田真貴子, 瀬戸梢, 瀬上綾, 松木田恵美, 和田みゆき</li> <li>5. 母親の食生活に対する行動変容の準備性と児童の朝食摂取との関係. 日本公衆衛生学会誌, 59 : 277-287, 2012 : <u>今村佳代子</u>, 瀬上綾, 和田みゆき, 迫田真貴子, 瀬戸梢, 原口美穂, 松木田恵美, 丸山千寿子</li> <li>6. 男子高校生における習慣的運動と食生活および食意識との関係. 鹿児島純心女子大看護栄養学部紀要, 22 : 48-54, 2018 : <u>今村佳代子</u>, 久永まゆみ, 染川真里佳, 池田ちほみ, 大小田桃子, 野村果代, 和田麻希</li> <li>7. 子どもの食育と保護者の食生活観. 保健の科学, 61 : 672-676, 2019 : <u>今村佳代子</u></li> <li>8. 運動部に所属する女子中学生・高校生アスリートの食生活および食意識の現状～スポーツ栄養に関する講演会の実施より～. 鹿児島純心女子大看護栄養学部紀要, 24 : 51-60, 2020 : <u>今村佳代子</u>, 久木田ヒロミ</li> <li>9. 生活習慣病予防のための食習慣と運動習慣. 公社 全国スポーツ推進委員会機関誌 みんなのスポーツ, 468 : 18-20, 2020 : <u>今村佳代子</u></li> </ol> <p>(その他) アスレシピ : アスリートのためのスポーツ栄養・食育サイト (日刊スポーツ新聞社) <a href="https://athleterecipe.com/">https://athleterecipe.com/</a> 「KAGOSHIMA 食×スポーツ」コラム担当, 2019～</p>



## 教員情報

山元 有子 (YAMAMOTO Yuko)	
所属	看護栄養学部 健康栄養学科
職名	准教授

## 【学位・業績等】

有する学位	人間科学修士
学位取得大学	早稲田大学大学院人間科学研究科
主な担当科目	家庭科教育法, 教職実践演習(中・高), 家庭総合
専門分野	教育工学, 家庭科教育
主な研究テーマ	グループ学習における学習効果
学会・社会活動	日本教育工学会, 日本教育心理学会, 日本家庭科教育学会
主な業績 (教育・研究等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピア・インストラクションを取り入れた授業がテスト成績に及ぼす影響. 日本教育工学会研究報告集, 16(4) 103-110 山元有子・向後千春 2016年</li> <li>・グループ活動の内容の違いが個別のテスト成績に及ぼす効果. 日本教育工学会研究報告集, 15(2) 51-58 山元有子・向後千春 2015年</li> <li>・グループ活動が学習成績と授業評価に及ぼす影響. 日本教育工学会研究報告集, 14(2) 83-90 山元有子・向後千春 2014年</li> <li>・シナリオ作成を伴ったロールプレイング授業が批判的思考態度に及ぼす効果. 日本教育工学会論文誌, 37(Suppl.), 33-36 山元有子・向後千春 2013年</li> </ul> <p>教育実践に関する発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの食生活を展望する力を養う小・中・高等学校の家庭科教育～つながりを重視し, 実践的な態度を育成する食に関する学習指導の在り方～ 山本有佳子・五領弘子・山元有子 全国家庭科教育協会研究大会 2010年</li> <li>・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を充実させるための工夫 平成15年度全国高等学校教育課程研究協議会 2003年</li> <li>・教員研修 鹿児島県総合教育センター短期研修(家庭科) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の指導の工夫 2018年 グループ学習の活用とその課題 2014年</li> </ul>